

## 第72回 経営協議会 議事要旨

日 時 平成25年9月26日(木) 13:30～15:13  
場 所 事務局4階第3会議室

- 報告事項1．平成26年度概算要求(対財務省)について(資料1)
- 報告事項2．平成25年度入試状況報告について(資料2)
- 報告事項3．受験生向け(高校等配付用)入試ポスターの作成について(資料3)
- 報告事項4．記者発表事項について(資料4)
- 報告事項5．本学教育研究評議会での審議事項等について(資料5)
- その他 鹿児島大学の現状について(資料6)

### [出席委員] 14名

前田学長  
(理事) 島、高松、清原、住吉、渡辺、熊本  
(学外有識者) 赤坂、伊牟田、大平、玉川、永田、中村、松木園

### [欠席委員] なし

### [オブザーバー]

(理事) 大野  
(監事) 坂東、押越  
(副学長) 野呂、飯干

### [事務局]

(部長) 森山、油原、廻、飯田  
(課長・室長) 那加野、川西、中園、通山、池尻、湊、増間、増間、藤崎

### 報告事項1．平成26年度概算要求(対財務省)について(資料1)

渡辺理事から、文部科学省から財務省に提出された平成26年度国立大学法人運営費交付金概算要求について資料に基づき説明があった後、質疑応答が行われた。

### 報告事項2．平成25年度入試状況報告について(資料2)

清原理事から、平成25年度入試状況報告について資料に基づき説明があった後、学外委員から、主に次のような意見が出された。

- ・ 入試状況及び就職競争力の分析結果に基づいた組織の統廃合、入学定員等の見直しが必要なのではないか。
- ・ 多様なニーズに応えるために様々な入試を実施されているが、コストの面からニーズの低いものは見直すことも必要かもしれない。帰国子女入試の志願者は少ないので矛盾するかもしれないが、グローバル化の時代であるので、受け皿として帰国子女特別選抜は農学部以外も検討されてはどうか。

- ・ 観光分野という括りの教育課程の構築、観光に関する人材の養成に取り組んではいかがか。
- ・ 離島を含め地域の特性を活かすとともに様々なフィールドワークを行いやすい環境にあるので、観光とか環境とか学ぶ新たな分野の学部教育の可能性を検討してはいかがか。
- ・ 今後は、アクティブシニアが増える時代なので、高齢者の再学習ニーズを捉えて、能動的な取り組みを行っていく必要があるのではないか。

#### 報告事項3．受験生向け（高校等配付用）入試ポスターの作成について（資料3）

高松理事から、受験生向け（高校等配付用）入試ポスターの作成について資料に基づき説明があった後、学外委員から、次のような意見が出された。

- ・ ポスター配付は、既に志願者の大部分を占めている認知度の高い九州地区より、本当に優秀な学生を多数確保したいのであれば、逆に九州地区以外の大都市圏、分母（受験対象者）の多いところに何か戦略的に情報を発信するというのが必要なのではないか。

#### 報告事項4．記者発表事項について（資料4）

学長から、本学の最近の主な記者発表事項等の記事を添付している旨説明があった。

#### 報告事項5．本学教育研究評議会での審議事項等について（資料5）

学長から、本学での動向等を把握して頂くために、教育研究評議会での審議事項等を添付している旨説明があった。

#### その他 鹿児島大学の現状について（資料6）

学長から、鹿児島大学の国際化への取組について、資料に基づき説明があった後、学外委員から、主に次のような意見が出された。

- ・ 国際化の取り組みは、全ての大学でやっていることから、鹿児島大学がどう差別化、競争優位性をもっていくか、戦略的に大事である。
- ・ 国際化の取り組みについて、重要と考える目標及び戦略を明確に設定し、その目標に向かっての体系的な取り組みとしてアクションプランを策定する必要があるのではないか。
- ・ 国際的通用性を有する学生の育成について、全学生を対象とした取り組みよりも、国際的通用性を強く志向する学生を対象とした教育に特化するといった、教育資源の集中的投資を考えても良いのではないか。
- ・ 大学の取り組みとして、TOEICとTOEFLのどちらが適切であるか、それぞれの違いを明確に理解された上で取り組んで頂きたい。
- ・ 学生の英語によるコミュニケーション能力を高める観点から、現在一部の大学院入試で導入しているTOEIC、TOEFLを拡大すべきではないか。

今回の経営協議会は、平成25年11月28日（木）13時30分から開催することとなった。